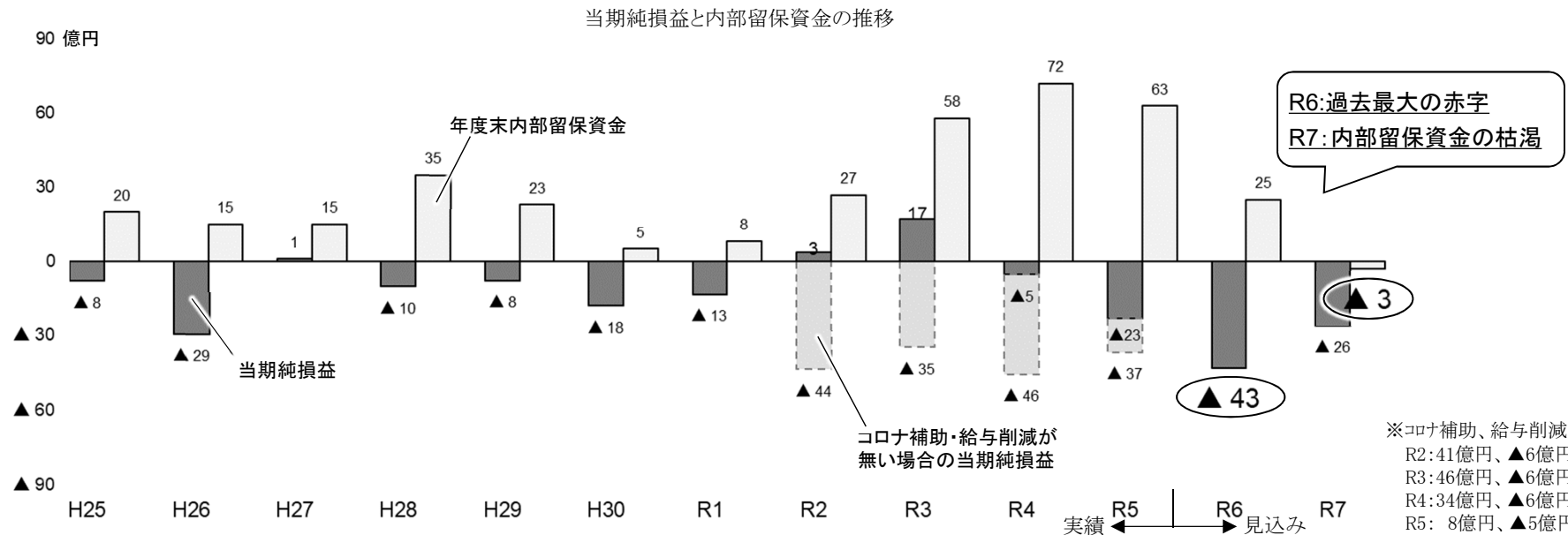
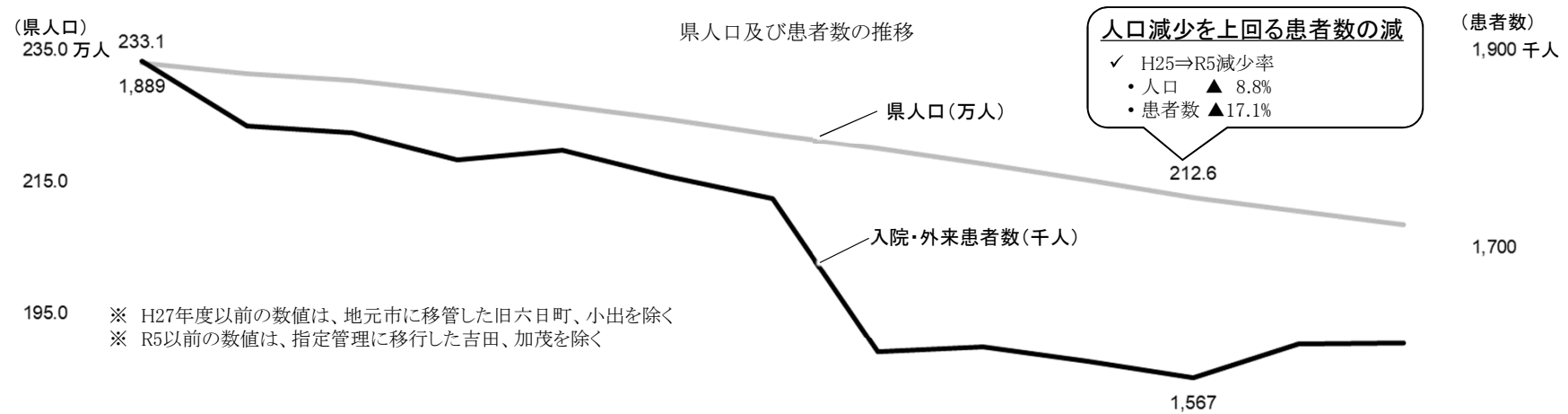


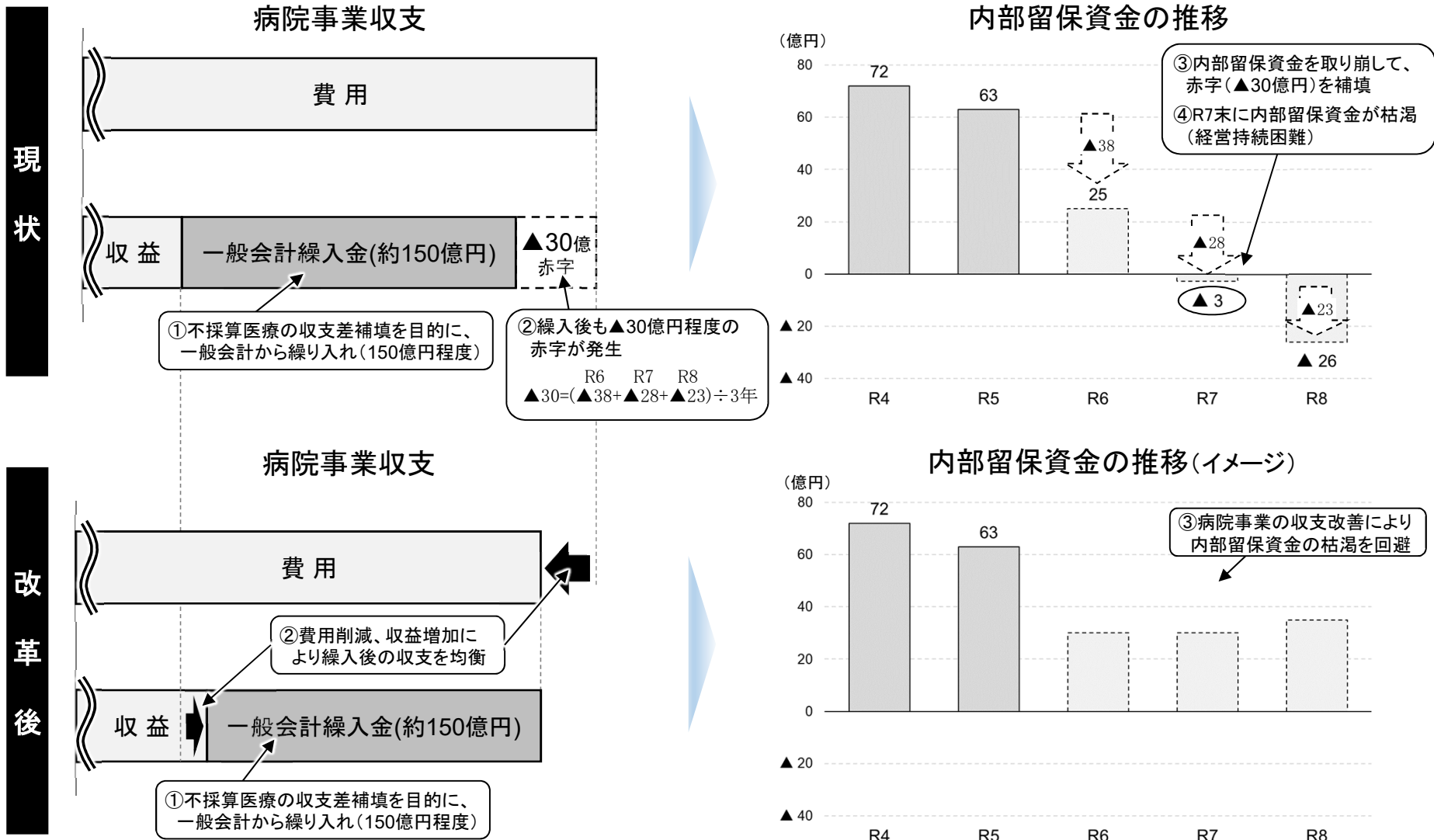
県立病院の経営改革に向けて

- R6年度当初予算は過去最大の▲43億円の赤字が見込まれており、このまま経営改革が進まなければ、R7年度末にも内部留保資金が枯渇し、病院事業が持続できない状況に陥る
- R7年度末の内部留保資金の枯渇回避を図るとともに、経営を持続可能なものにするため、関係者との調整を進め、できるものから速やかに実行する



県立病院の経営改革必要額について

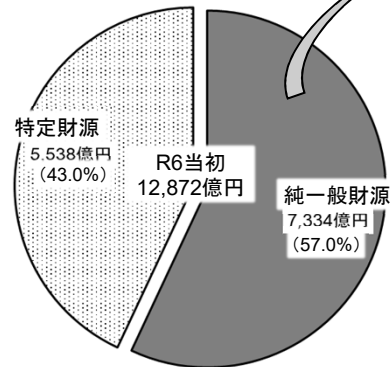
- 病院事業会計は、急激な人口構造の変化による患者数の減少などにより、不採算医療の収支差補填を目的とした150億円程度の一般会計繰入金が常態化している中、繰入後も毎年度30億円程度の赤字が発生し内部留保資金を取り崩す経営体質となっている
- このため、まずは病院事業の経営体質を30億円改善し、内部留保資金の減少を回避する必要がある



病院事業会計繰出金の一般会計に占める割合

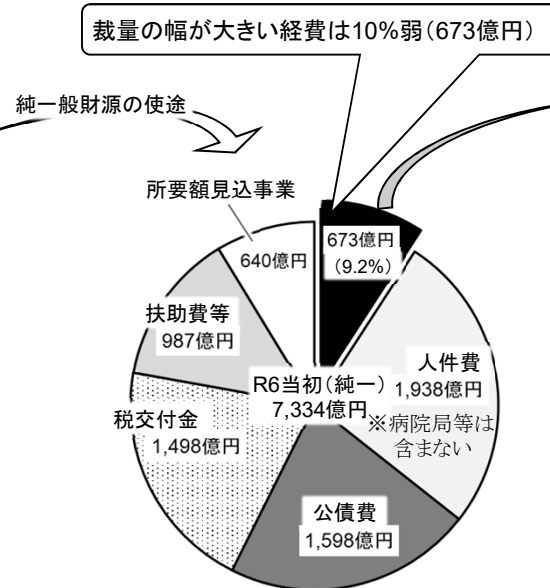
- 約1.3兆円の県予算のうち、裁量の幅が大きい経費はごく一部のため、県政の重要課題に対応する事業などの経費を削減しない限り、県立病院への繰出金を増やすことはできない

R6当初予算の財源内訳



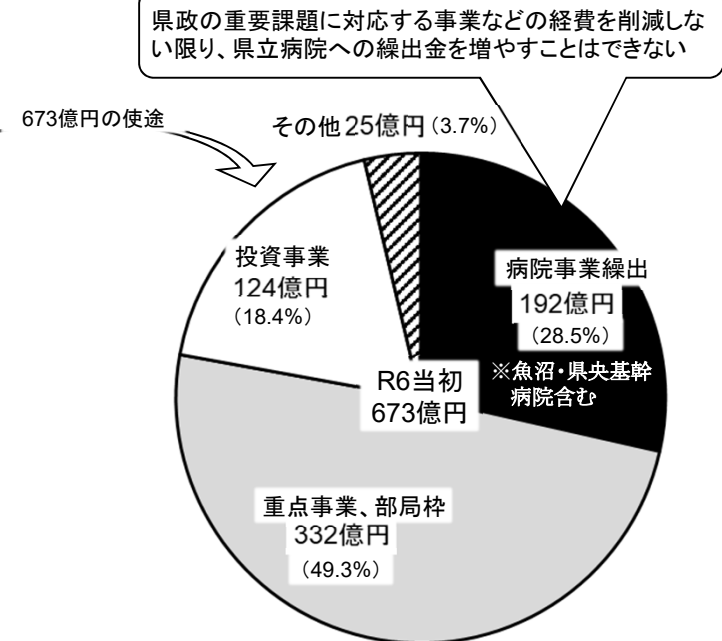
- ・ 純一般財源
県が自由に活用できる財源
- ・ 特定財源
国庫支出金等、使途が特定されている財源

R6当初 純一般財源の使途



- ・ 人件費
給与費や退職手当等の経費
- ・ 公債費
県債の償還に要する経費
- ・ 税交付金
県税収入のうち、法令に基づき市町村等に交付する経費
- ・ 扶助費等
生活保護費等の法令等に基づき被扶助者に対して支給する経費（間接的に市町村に交付する経費を含む）
- ・ 所要額見込事業
法令上支出が義務付けられている経費等、裁量の幅が小さい経費

R6当初 673億円の使途

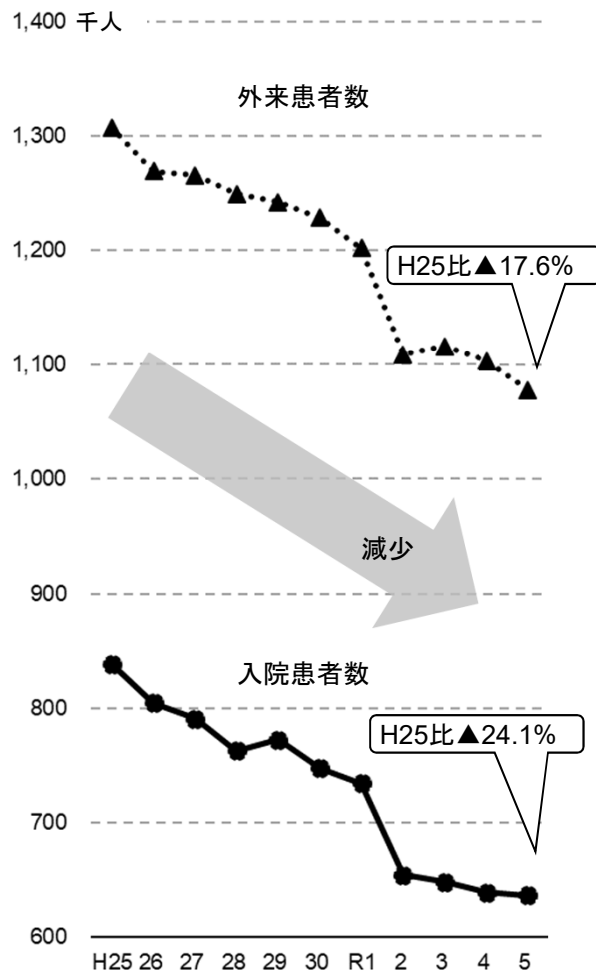


- ・ 重点事業、部局枠
政策的に実施する事業、知事公約の実現に向けた事業、県政の重要課題に対応する事業の経費
- ・ 投資事業
道路や学校、公園など、将来に形が残るものを整備する事業の経費
- ・ 病院事業繰出
病院事業会計に対する繰出金（補助金）

県立病院の経営環境 ①

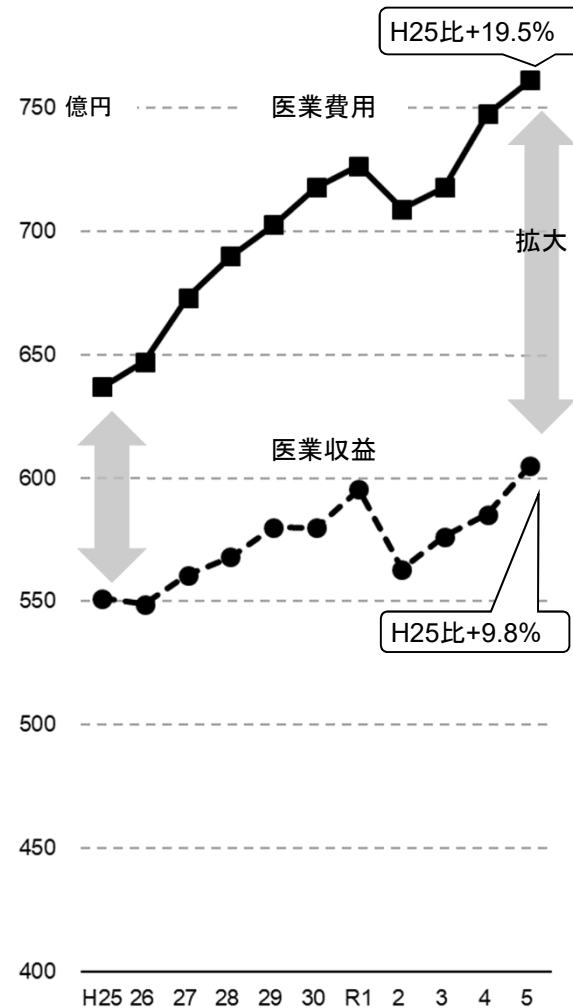
患者数

- ✓ 人口減少、医師偏在、受診間隔延伸、在院日数短縮等により患者数は減少傾向



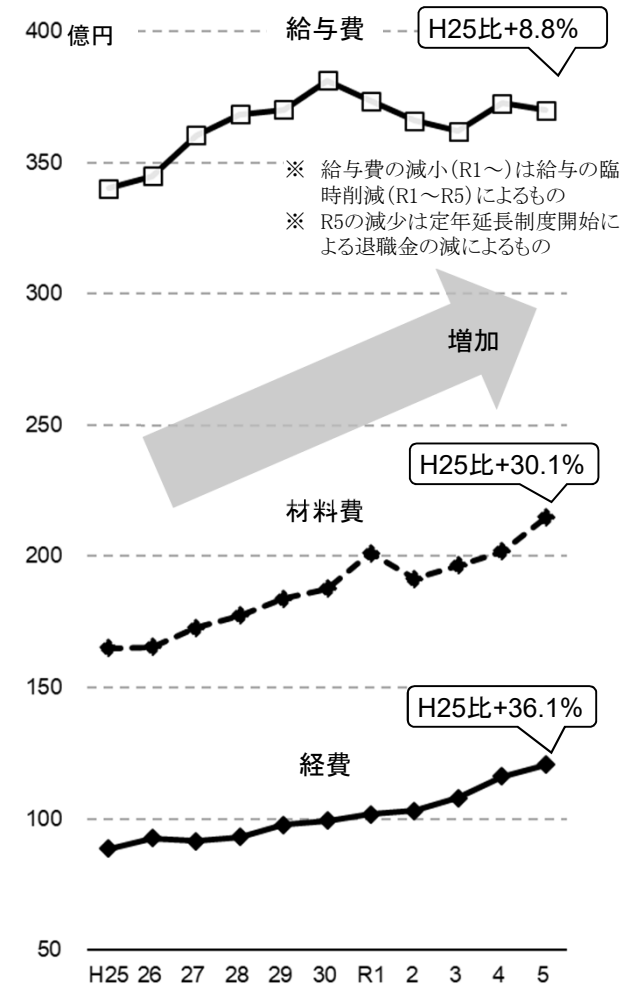
医業収支

- ✓ 患者数が減少する中、診療報酬新規加算獲得等により収益は増加しているものの、それを上回る費用の増加により収支は悪化傾向



主な費用

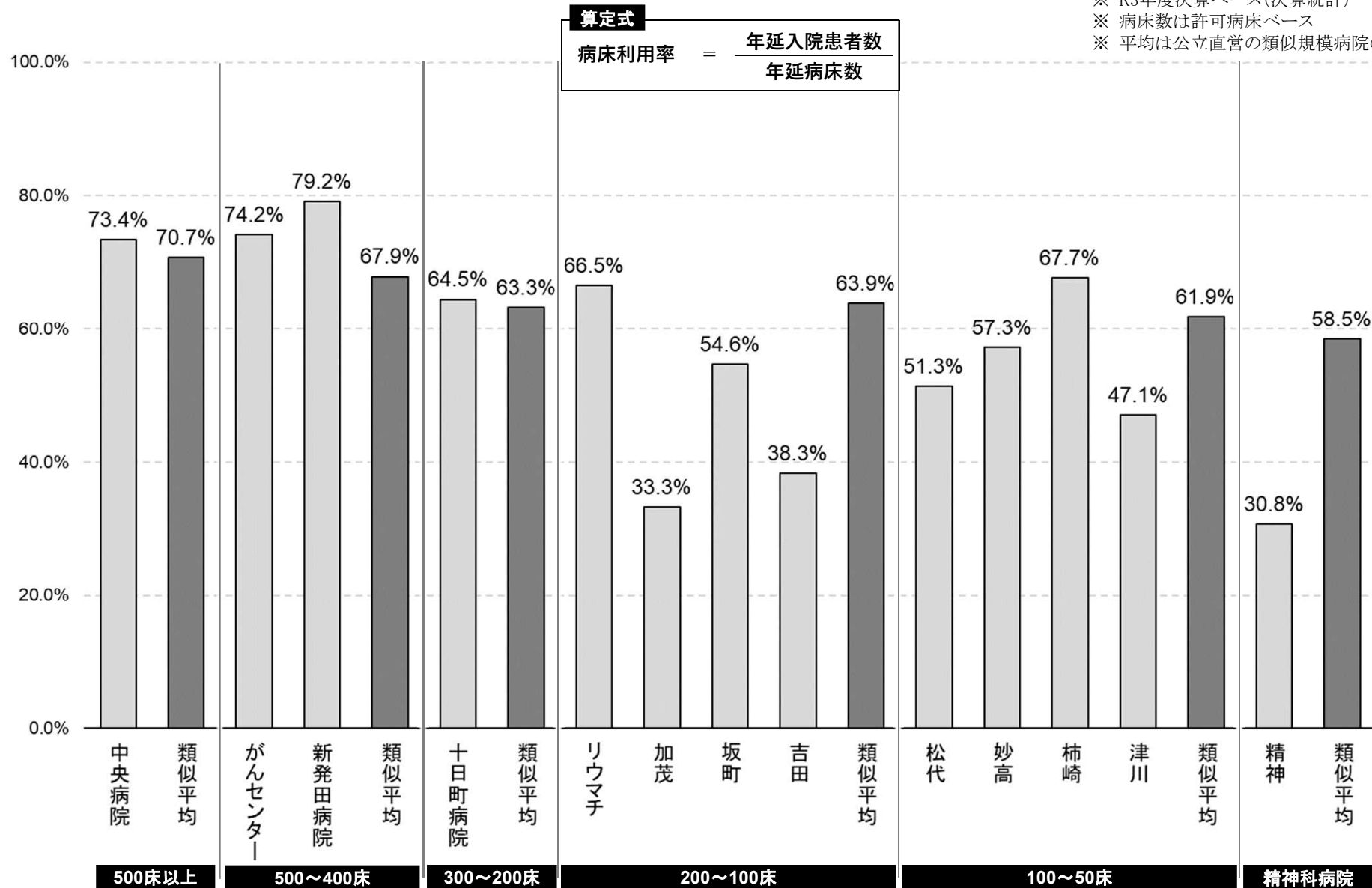
- ✓ 人件費増、高額薬品増、光熱水費・燃料費の高騰等により費用は増加傾向



県立病院の経営環境 ②〔病床利用率〕

- 病床規模が小さくなるにつれて類似規模病院の全国平均と比較して低い
- 精神科病院の全国平均と比較して低い

※ R3年度決算ベース(決算統計)
 ※ 病床数は許可病床ベース
 ※ 平均は公立直営の類似規模病院の数値

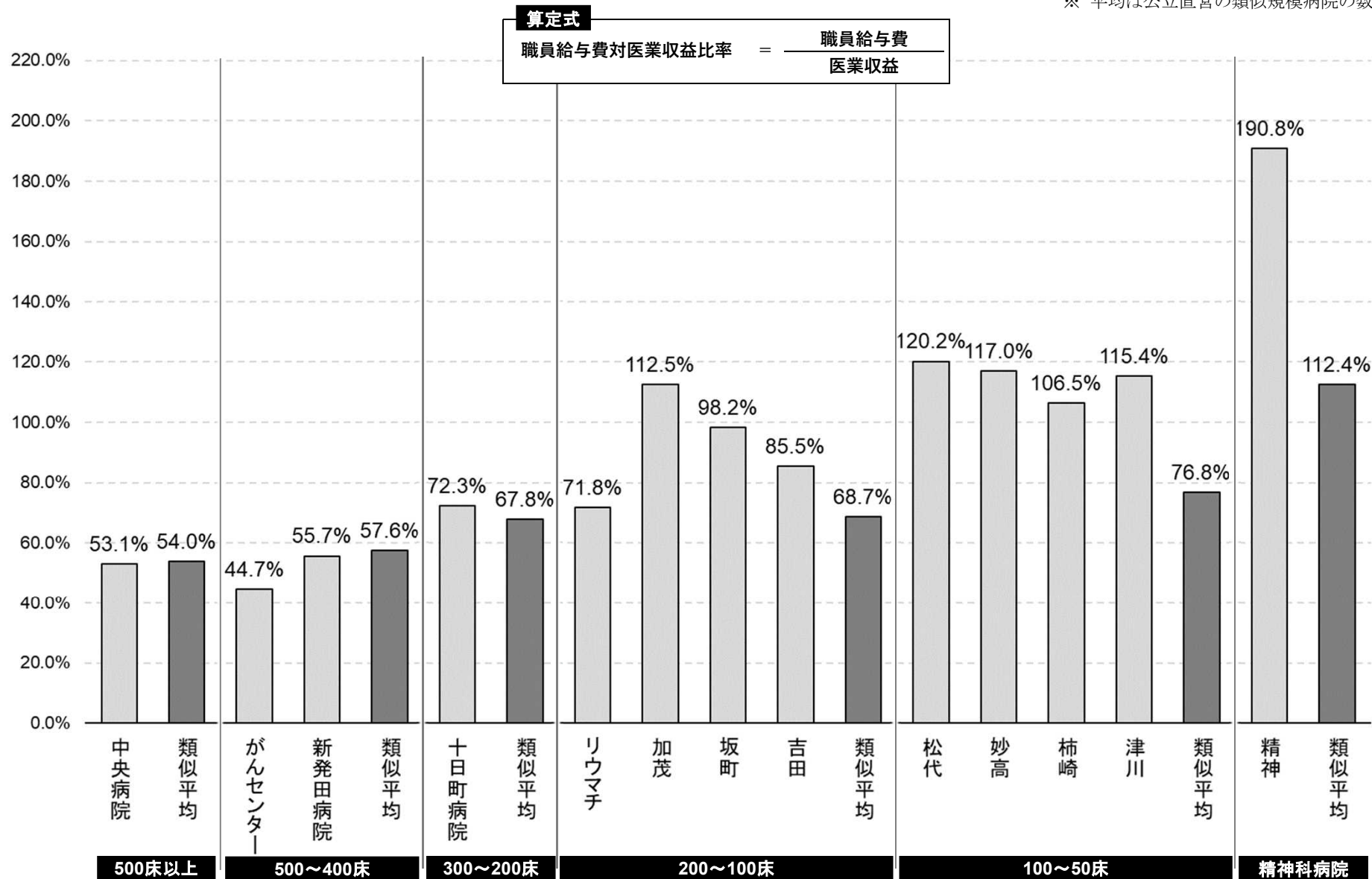


県立病院の経営環境 ③〔職員給与費対医業収益比率〕

- 病床規模が小さくなるにつれて類似規模病院の全国平均と比較して高い
- 精神科病院の全国平均と比較して高い

※ R3年度決算ベース(決算統計)

※ 平均は公立直営の類似規模病院の数値



県立病院の経営改革推進の考え方

- 内部留保資金の枯渇回避を図るとともに、経営を持続可能なものにするため、関係者との調整を進め、できるものから速やかに実行する

